

# 家畜中毒診断のための オンラインマニュアル

安全性研究チーム長

宮崎 茂

SHIGERU Miyazaki

家畜の中毒発生状況に関する統計データはほとんどありませんが、唯一参考になるデータとして「家畜共済統計表」(農林水産省経営局保険課)があります。この統計によれば、牛の中毒による病傷件数は毎年1,000件程度です。この数字は、家畜診療現場の共済獣医師が下した診断結果に基づくものですが、家畜に発生する各種中毒の診断基準が明確でないことも多く、どのような基準で中毒と診断されたのか、個々の事例で異なっているものと思われる。この背景には、中毒の診断には系統的な手法がなく、原因ごとに診断法が異なることが挙げられます。このようなことから、唯一の数値データである「家畜共済統計表」による数値以上に中毒事例が発生していることも予想され、これによる経済的損失も少なくないものと思われます。また、家畜衛生の現場におられる家畜保健衛生所の獣医師の方々から、家畜中毒の診断に役立つマニュアルの作成が求められていました。

我々は、家畜保健衛生所の職員を主要な対象としたウェブサイト「家畜中毒情報」(<http://niah.naro.affrc.go.jp/disease/poisoning/>)を1997年に開設し、随時内容を更新して最新情報を提供してきました。また、動物衛生研究所東北支所の和田正美さんが撮影された有毒植物の写真を基に「写真で見る家畜の有毒植物と中毒」<sup>1)</sup>を刊行しましたが、2003年には冊子の内容に追加、修正を加えてウェブ上での公開を開始しました(<http://niah.naro.affrc.go.jp/disease/poisoning/plants/index.html>)。このように、家畜の中毒に関する各種の情報をウェブ上で提供してきましたが、「診断」に役立つ情報を系統的にまとめた「マニュアル」の作成には至っていませんでした。そこで、これまで蓄積してきた情報を基に、我々が開発した有毒物質の分析法に関する成果<sup>2-5)</sup>も反映させたマニュアルを作成し、ウェブ上で提供するこ

とを計画し、2005年12月に公開するに至りました。

公開した「家畜中毒診断オンラインマニュアル」(<http://niah.naro.affrc.go.jp/disease/poisoning/manual/>)は、図のようなデータ構造で構築し、既存のウェブサイト「家畜中毒情報」および「写真で見る家畜の有毒植物と中毒」との連携を取るとともに、全文検索エンジンによるサイト内検索機能により、家畜保健衛生所の担当者に的確に情報をお届けできるようにしました。また、ウェブ上での公開という点を活用し、外部の有用なサイトへのリンクを張って情報の収集を容易にしました。

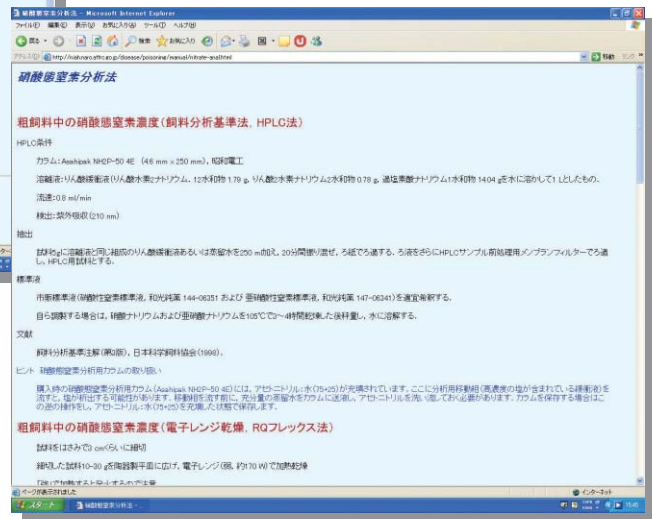
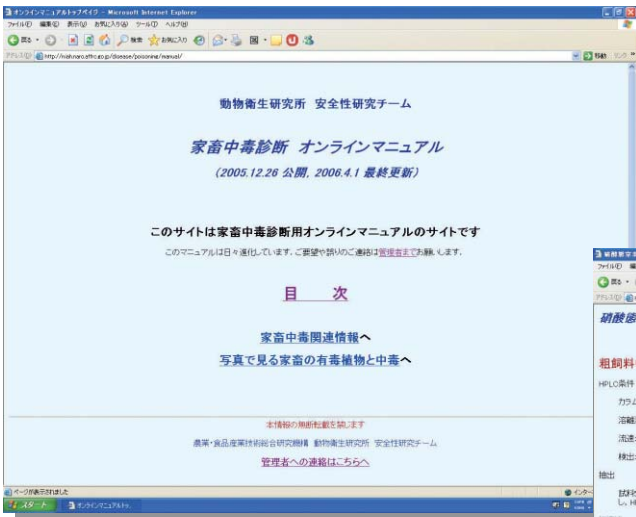
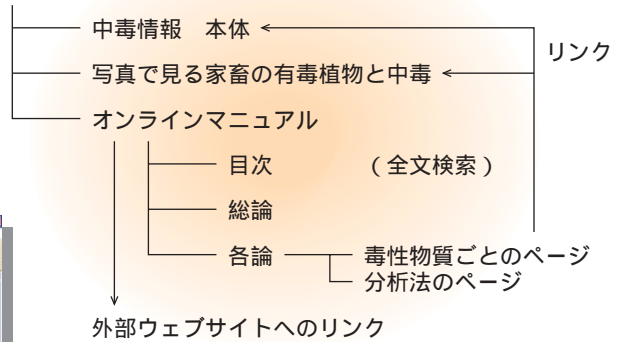
冊子体ではなくウェブでの公開にしましたので、内容の更新は随時可能です。必要に応じてコンテンツの追加及び修正を行い、「マニュアル」の高度化を図っていく予定です。特に、「マニュアル」として使いやすいものに改良していくためには、実際の診断業務で得られた貴重な経験に基づく情報を、「マニュアル」に反映させていくことが重要と考えています。家畜保健衛生所の担当の皆様には、「マニュアル」の内容を充実させるための情報提供をお願いするとともに、忌憚のないご意見をお寄せ頂ければ幸いです。

## 文献

- 1) 写真で見る家畜の有毒植物と中毒, 畜産技術情報協会, 2000.
- 2) 動物衛生研究成果情報, No1, 39-40, 2002.
- 3) Hamada et al., J. Chromatogr. Sci. 40, 515-518, 2002.
- 4) Miyazaki et al., J. Vet. Diagn. Invest. 15, 480-483, 2003.
- 5) Miyazaki et al., J. Vet. Diagn. Invest. 16, 340-342, 2004.

## データ構造

### 家畜中毒情報トップページ



<http://niah.naro.affrc.go.jp/disease/poisoning/manual/>

相互連携

